

(様式6-3)

研修等 報告書

元年 11月 25日

三田市議会議員 福田 秀章 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	印
		議員名	
参加者氏名	佐々木 智文		
講演会等研修名	地域公共交通の基礎知識と街づくりへの活用 CASE・MaaSで変わるこれからの地域公共交通 地域公共交通網形成計画による地域に合わせた公共交通の構築 立地適正化計画によるコンパクト・プラス・ネットワークの実現		
研修事項	地域公共交通特別講座（地方議員研究会）		
日 時	元年 11月 20日（木）13：00～30年 11月 22日（金）16：30		
場 所	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 3-30-8 SYビル 6階・7階		
所 見	別紙		
添付資料	・研修資料 ・ ・ ・		

6 添付書類（講演会内容のパンフレット等）

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、参加者氏名は不要）

地域公共交通特別講座（地方議員研究会）

地域公共交通の基礎知識と街づくりへの活用

公共交通とはからはじまり、現在の公共交通の役割について、地域住民の移動手段の確保として、現在でも社会問題となっている運転できない人や高齢者、障害者、妊婦等に対する手段がなかなか確保できないのが現状である。

また、人の交流の活性化による来訪者が移動できる利便性や回遊性の向上による人の交流の活発化など、公共交通の役割を求める時代となっている。

これらのことを踏まえて、全国各地でいろんな支援や方法が構築され、先進事例となって全国に広まりつつある。

地域公共交通の活性化については、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークが再構築されつつある。またこれらについては、自治体が関係者により構成された協議会等を立ち上げ、地域公共交通の再編実施計画などの見直しを行っているところが多くなってきた。

自家用有償旅客運送の導入の背景には、過疎化の進行等路線バスの撤退が進み生活交通の確保が大きな問題となり、移動制約者に対する個別運送サービスへの需要が急増している。

平成 18 年に自家用車有償旅客運送制度が創設され、地域住民の生活維持に不可欠な輸送となって、安全かつ安心して利用できるサービスの普及を促進するようになってきている。

CASE・MaaS で変わるこれからの地域公共交通

CASE/MaaS の位置づけについては、コネクテッド、自動運転、シェアリングとサービス、電気自動車等これらの要素技術を活用して都市や社会全体の変革を象徴した Mobility as a Service の概念が提唱されている。

市街地走行は 2030 年までこない現状がある。安全運転支援システム、自動走行システム、交通データ利活用などの技術レベルがまだまだほど遠い話である。

いろんな形での導入事例は多くあるが、頼とんどの場合運転者が乗車している。

新しいモビリティサービスについては、新型輸送サービスとして、オンデマンド交通、超小型モビリティ、グリーンスローモビリティ、自動運転による交通サービスなど新しいサービスを増やすことが重要である。

地域公共交通網形成計画による地域に合わせた公共交通の構築

地域公共交通活性化・再生法の概要は、地域公共交通網形成計画によりマスタープランを構築して地域にとって望ましい公共交通網の姿を描くことである。

基本方針の策定は、地域公共交通の活性化及び再生の意義及び目標、地域公共交通網形成計画の作成、地域公共交通網形成計画に定める事業、地域公共交通の活性化及び再生に関する事業の評価など地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する事項が策定の基本である。

立地適正化計画によるコンパクト・プラス・ネットワークの実現

立地適正化と網形成計画はまちづくりの両輪であることは、地域公共交通と連携して、コ

コンパクトなまちづくりを進め、都市再生特別措置法並びに、地域公共交通活性化再生法が改正され、面的な公共交通ネットワークを再構築することができた。

これにより、コンパクト+ネットワークが実現をした。

立地適正化計画に求められるのは、市町村の主体性と都道府県の広域調整が不可欠となってくる。

以上全4講座を受講しての所見

三田市も今回受講した内容の計画等は作成済みだが、その計画をいかに早く実行に移すかが大きな課題であるとともに、実効性のある内容にもシフトしていくことが重要であると思いました。これらの講義をもとに、今後の三田市の公共交通の進むべき方向性を助言、提言を行っていきたいと考えています。

地域公共交通の基礎知識と街づくりへの活用

早稲田大学スマート社会技術融合研究機構
電動車両研究所 研究院 客員准教授
井原 雄人

Research Institute of Electric-driven Vehicles, WASEDA University



自己紹介

2

- 名前：井原雄人
- 所属：早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所
：株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
- これまでの研究開発プロジェクト
：2002年から電動バス（奈良県、本庄市、長野市、川崎市、桐生市など）
：2008年からコミュニティ交通（北九州市、瀬戸市、沼津市、大井町など）

15年間車の研究をしていますが

- **免許を持っていません**
- **とても乗り物酔いをします**

**運転できないからこそ自分のこととして
「地域公共交通」を考えています**